

三菱ケミカルグループ株式会社

2023年3月期 第2四半期 決算説明

ネットカンファレンス質疑応答サマリー

開催日：2022年11月8日

本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは機能商品、ケミカルズ、ヘルスケア、産業ガス等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。

但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。

➤ 回答者 :

代表執行役社長 ジョンマーク・ギルソン

執行役エグゼクティブバイスプレジデント 最高財務責任者 中平 優子

ファーマビジネスグループ 戦略本部長 小林 義広

【質疑応答】

Q1.

ギルソン社長にお伺いしたい。上期は厳しい環境の中でインラインのコア営業利益を挙げられた。かなりの価格転嫁やコスト削減の努力をされたと思う。一方で新経営方針「Forging the Future 未来を拓く」の進捗に対してはインフレなどの向かい風が吹いていると思う。構造改革を加速することのだが、どういったところを加速するのか教えて欲しい。

A1.(ギルソン)

「Forging the Future」には 5 つのポイントがある。組織の簡素化については既に行っている。コスト構造改革は進捗しており、様々な検討を行っている。分離・再編も既に話が進んでおり、両方とも重要なことである。来年 2 月のミーティングでより詳細な内容をお伝えできると思うが、本日は共有できない。

Q2.

機能商品において 1Q、2Q と利益が横ばいなのはこの環境下でかなり健闘していると思う。各サブセグメントにおいて 1Q から 2Q への動き、上期から下期への動きについて教えて欲しい。

A2.(中平)

1Q から 2Q に掛けて大きくマイナスとなったのはディスプレイ関連部材である。主にフィルムズ & モールディングマテリアルズでマイナスの影響があった。上期から下期に掛けてディスプレイ市場が年度内に回復するのは難しいと見込む。それ以外は期初予想と比べマイナスとはならない。全体としてもそれほど影響を受けない。

Q3.

メディカゴ社の新事業計画はいつ頃できるのか。また、今回発表した通期見直しにはコロナワクチンの収益は全く入っていないのか教えて欲しい。

A3.(中平)

今回発表した通期業績予想に、メディカゴ社のコロナワクチンの収益は計上していない。商用規模生産に課題があり、原因につき調査中である。メディカゴ社の新事業計画については、遅くとも今年度中にどこかでお話しできると思う。

Q4.

MMA について、米国での投資の意思決定を遅らせたとのことだが、米国でのアルファ法(新エチレン法)の導入については、ビルド&スクラップによる抜本的な競争力改善の意味があると思う。

MMA がカーブアウトの対象に入るなど戦略的な変更があるのか、十分な採算性が見込めないの
で遅延になっているのか理由を教えてください。

A4. (中平)

MMA の米国での投資については、あくまでも意思決定の時期を遅らせるということであり、戦略
そのものを変えるということではない。アルファ法は MMA 市場をリードするのに必須であると考えて
いる。足元の需要が非常に弱く、需給バランスが合っていない中で、タイミングを遅らせるという
ことである。外部環境が不透明な中で、投資のタイミングを遅らせることで経営の自由度を高める
ことができる。グループ全体の財務的影響も考慮に入れている。

Q5.

炭素事業において、原料炭の下落により受払差のマイナス影響があったとのことだが、2Q は 64
億円の受払差損がある中で 8 億円の赤字である。受払差影響がなかったと仮定しても、ROA がか
なり低い。このような中でカーブアウトの議論を行っているが、実現可能性はあるのか。あえて遅
らせるのも一つの戦略ではないのか。

A5. (中平)

原料炭価格の下落により一時的にコア営業利益が悪化している。炭素事業は、数年前に戦略
的な方向性を変えて、輸出中心にシフトして特定顧客に対して販売し、市況に引きずられにくいビ
ジネスへと変化している。競争力については、カーブアウトを考える上で十分意味のあることであ
る。

Q6.

ラジカヴァは売上収益の予想を上方修正している。経口剤は順調という理解で良いのか。流通
在庫が積み上がっているということはないと理解して良いのか。来期以降どういう成長率になるの
か教えて欲しい。

A6. (中平)

ラジカヴァの経口剤は患者さんの QOL 向上につながるものであり、計画以上に順調に受け入
れられている。経口剤が出るのを待っていたという患者さんのニーズに応えたもので、この立ち上
がりのペースがずっと続くというものではないが、全体としては良い立ち上がりである。

A6. (小林)

ラジカヴァには注射剤と経口剤があるが、経口剤は利便性が高く新しい患者さんを獲得できて
いる。経口剤だけで今期は 1.2 億ドル、来期は約 2 億ドルの売上収益と予想している。昨年比では
注射剤の伸びはフラットであり、新しく伸びたのは経口剤である。長い目で見れば注射剤は少しづ
つ落ち、経口剤が増える。経口剤の新規投薬が増えることでトータルでは増えていくこととなる。今
年度から来年度あたりにかけては増加が続くと見込む。

Q7.

医薬品事業において、従来予想との比較では売上収益はほぼ変わらず、コア営業利益が 80 億
円減少している。研究開発費が 80 億円増加しているのが減益要因に見えるが、ラジカヴァの増

益、コロナワクチンの減益、開発費の増加がどうネットして 80 億円の減益予想につながるのか、整理して教えて欲しい。

A7.(中平)

期初に発表した通期業績予想と今回発表予想におけるコア営業利益の減益 80 億円は、コロナワクチンの収益を業績予想から外したことが最も大きい。減益幅はネットで 80 億円であり、コロナワクチンはそれ以上に大きく期待していたところであるが、ラジカヴァや重点医薬品の伸びでカバーしている。研究開発費の増加は、ニューロダーム社やメディカゴ社など海外で研究開発を行っているグループ会社の費用が為替差で膨らんでいる。

Q8.

機能商品セグメントのポリマーズ&コンパウンズは、上期のコア営業利益は 160 億円と順調だが下期予想は 100 億円である。2Q 単独でも 93 億円の利益を計上しているのに、下期が伸びないのはなぜか教えて欲しい。

A8.(中平)

ポリマーズ&コンパウンズは 3Q に定修が集中しており、数量面でマイナス方向。また、ポリカーボネートのスプレッドの縮小を見込んでおり、これらがマイナス要因である。

Q9.

MMA の米国投資の判断延期に関して、建設コストはインフレもあり上昇しているが、想定以上に上昇したということか。また、金利が上昇する中で借り入れ時の負担も増えるが、それも含めて判断を延期したという理解で良いか。

A9.(中平)

建設コストにはインフレの影響もある。円貨で見れば費用は為替影響で膨らむが、資金調達は基本的に現地だと考えている。今回の意思決定のポイントは、足元の需給バランスと回復見通しに対してもう少し感覚がつかめるまで、財務的にフレキシビリティをっておきたいということである。クイックにリターンが見込める案件への投資もしやすくなる。

Q10.

MMA について、2Q の市況と稼働率、下期の市況・稼働率の想定を教えて欲しい。1Q から 2Q にかけて市況が落ちた割には利益が大きくは落ちなかった背景について教えて欲しい。また 2Q 実績のコア営業利益 18 億円から下期予想のコア営業利益 6 億円の動きについて教えて欲しい。

A10.(中平)

MMA のアジア市況は 1Q で 2,100 ドル程度だったところ、7 月からずると下落し、9 月は約 1,600 ドルとなった。秋口の需要期に入ったこともありその後は持ちこたえている。1,600 ドルは底と考えている。2Q 平均の市況は 1,800 ドルをやや下回っている。3Q は 1,700 ドル台、4Q は 1,800 ドル台に回復すると見込んでいる。この中で何とか黒字を確保したい。(コスト競争力の高い)中東の SAMAC のプラントから、欧州へ輸出すること等でスプレッドを最大限にできるようにしている。全体の稼働率は低いときには 6 割を切ることもあったが、状況はプラントごとに異なっている。例え

ば英国のキャッセル工場は再開していない。サウジアラビア(SAMAC)はほぼフル稼働で、黒字を保っている。全体の稼働率は2Q実績が68%、下期見通しが63%である。

米国での投資を含めて、全体として製造拠点の最適化を常に検討している。決定したことはないが、色々と検討の俎上に載せている。大きな方向性として、ACH法からアルファ法へのシフトはある。その流れの中で意思決定していく。

Q11.

石化は2Q実績のコア営業利益28億円から、下期予想は155億円となる。下期は在庫の受払差がマイナス方向と見込まれるのに利益がジャンプアップする理由は何か教えて欲しい。

A11.(中平)

定修影響が1Qから2Qの7月にかけてあったものが、下期には解消され、数量の拡大を見込んでいる。受払差益は2Qで大きく縮小し、3Qは多少マイナス方向に見ているものの、ポリオレフィン関連の事業のスプレッドが改善し、増益を見込んでいる。

Q12.

ポリマーズ&コンパウンズは1Qから2Qにかけて増益し、上期実績は期初予想を上回っている。EVOH(ソアノール)が改善していると思うが背景について教えて欲しい。また下期の見通しについて教えて欲しい。

A12.(中平)

ポリマーズ&コンパウンズの増益に関しては、パフォーマンスポリマーズの売買差の改善や、ソアノールにおいて昨年度あった北米のサプライヤーのトラブルがなくなり、数量が回復している。ソアノールの2Qの販売数量は、前年同期比で10%以上プラスである。下期も堅調に推移すると考えている。

Q13.

主要製品の動向について教えて欲しい。OPLフィルム、炭素繊維、電池材料ではどうか。

A13.(中平)

OPLフィルムについては厳しい見方をしており、下期は前年比2割ほどマイナスになると見込む。炭素繊維は上期順調であり、下期も前年比で2割近く増加すると見ている。電池材料は2Qも下期も前年並みと見ている。

以上